

## 「経口抗がん薬の経管投与に関する横浜宣言 2026」の宣言の前文

本宣言は、抗がん薬を経管投与する際の危険な粉砕を防止することを出発点とする。

がん患者の治療継続と、投与に関わる医療従事者や患者家族などの安全確保を両立させ、経口抗がん薬の経管投与に関する基本的な考え方および実践上の留意点を整理することで、医療従事者間の共通理解を促進することを目的とします。

日本臨床腫瘍学会学術集会（JSMO2026）における議論・発信を契機とし、今後は日本臨床腫瘍学会および日本服薬支援研究会のホームページ等を通じて広く情報を発信し、実臨床における安全で確実な服薬支援の推進につなげてまいります。経管からの医薬品投与は、日本服薬支援研究会が「正しい簡易懸濁法の普及」「適正な薬剤選択」「医療従事者の職業性曝露対策」を重要課題として位置づけ取り組んでいる活動です。なお、日本服薬支援研究会（旧称：簡易懸濁法研究会）は簡易懸濁法を確立し、その正しい知識と技術を普及するために活動している医療従事者や家族のための組織です。

## 「経口抗がん薬の経管投与に関する横浜宣言 2026」の宣言文章

「経口抗がん薬の服用が困難な患者であっても、経管投与は継続的な薬物療法を可能とする重要な治療選択肢である。

一方で、経管投与を担う医療従事者及び介護にあたる家族等には、抗がん薬曝露というリスクが伴う。

そこで、抗がん薬の経管投与に際しては、薬の加工が必要な場合には薬剤師と十分に連携し、簡易懸濁法に適する製剤を選択した上で、抗がん薬曝露の危険性が少ない適正な簡易懸濁法の手技により実施することを強く推奨する。

そして、これに従事するすべての者は、抗がん薬曝露対策を正しく理解し、正しい手技でこれを実践する。

我々、日本服薬支援研究会は抗がん薬を粉砕・脱カプセルする危険な操作（作業）を防止し、簡易懸濁法の正しい手技と、抗がん薬曝露に関する正しい理解及びその対策に関する継続的な研究・教育を実施し、経口投与が困難ながん患者であっても、抗がん薬治療の機会が失われることのないよう、適正かつ安全な抗がん薬の経管投与法の普及に努めることを宣言する。」